

体格と平均余命、生涯医療費の関連について：大崎コホート研究

Impact of obesity, overweight and underweight on life expectancy and lifetime medical expenditures: the Ohsaki Cohort Study.

2012年 BMJ Open 発表

肥満者は平均余命が短く、生涯医療費も高い

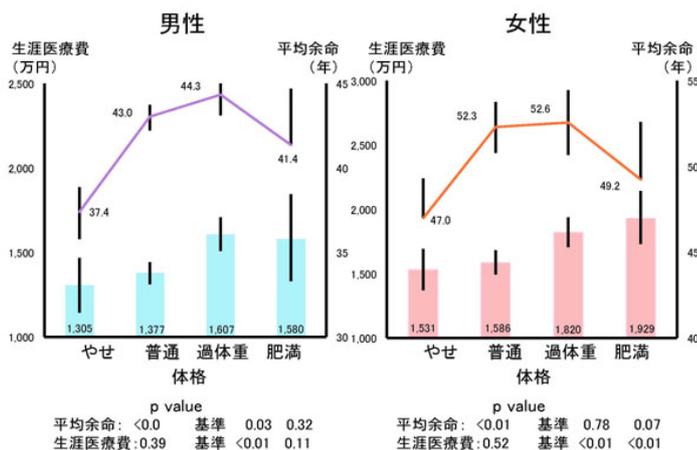
肥満者は普通体重の者に比べて期間あたり（1ヶ月間、1年間など）の医療費が高くなることが報告されています。一方で肥満者の死亡リスクは普通体重の者よりも高いことも分かっています。そのため、普通体重の者は長生きする分、肥満者より生涯医療費が低額になるのか否か分かっていません。そこで、私たちのグループでは「大崎国保加入者コホート」のデータを解析して、体格と平均余命、生涯医療費の関連を検討しました。

その結果、40歳の平均余命は普通体重（男性：43.0年、女性：52.3年）に比しやせの男性で5.6年（37.4年）、女性で5.3年（47.0年）、肥満は男性で1.6年（41.4年）、女性で3.1年（49.2年）短かったです。

一方、40歳の生涯医療費は普通体重（男性：1,377万円、女性：1,586万円）に比しやせの男性で72万円（1,305万円）、女性で55万円（1,531万円）低く、肥満は男性で203万円（1,580万円）、女性で343万円（1,929万円）高かったです。

以上より、普通体重に比べ、やせおよび肥満の平均余命は短いにもかかわらず、生涯医療費はやせで同程度、肥満で高額になることが明らかとなりました。

体格と平均余命、生涯医療費



研究のデータについて

ベースライン調査：1994年10月から12月にかけて、宮城県の大崎保健所が管轄する14市町（当時）に居住する、40～79歳の国民健康保険の加入者約55,000名を対象に生活習慣や健康状態などに関する自己記入式アンケートを配布し、うち52,029名から有効回答を得ました（有効回答率：95%）。生活習慣に関する調査内容は、病気の既往歴と家族歴、体格などの健康状態、運動・喫煙・飲酒・食事などの生活習慣、婚姻状況、学歴などの社会的な状況から構成されています。

追跡調査：本研究の対象者はベースライン調査に回答をいただいた方から、追跡開始以前に国民健康保険から脱退した方、身長または体重の回答に不備があった方、BMIの値が極端な方、追跡開始から一年以内に亡くなった方、がん・脳卒中・虚血性心疾患・腎疾患の既往歴がある方を除外しました。以上より、解析対象者は41,965名です。1995年1月1日から2007年12月31日まで13年間、個人の生存状況と毎月の医療費を追跡しました。

体格に関する調査について

ベースライン調査によって回答の得られた身長と体重から「BMI = (体重(kg)/身長(m²))」の式よりBMIを算出し、<18.5（やせ）、18.5～24.9（普通体重）、25.0～29.9（過体重）、≥30.0（肥満）の4群に分類しました。それぞれの群について40歳からの平均余命と生涯医療費を算出しました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、体格と平均余命、生涯医療費に関連すると考えられている他の要因の影響を考慮して結果を算出しています。具体的には、年齢、BMI、喫煙習慣、飲酒習慣、歩行時間/日、身体活動時間/週、学歴について、群間に偏りがないように統計学的に調整を行いました。

研究の特徴と限界について

本研究の長所は個人の実際の医療費を長期間追跡し、実測から体格と生涯医療費を算出した世界初の研究であります。一方、限界として日本人の肥満者は少ないため統計学的に有意な結果が得られなかった可能性がある点などが挙げられます。
